



保津川の魅力が詰まった冊子「母なる川・保津川〜セピア色の絵葉書で下る〜」

冊子「母なる川・保津川〜セピア色の絵葉書で下る〜」

保津川の魅力、絵はがきに

売上げは川の支援団体へ寄付

京都を中心に水文化を研究・学習する「カップパ研究会」はこのほど、明治から昭和初期の絵葉書で保津川(桂川)の魅力を紹介する冊子「母なる川・保津川〜セピア色の絵葉書で下る〜」を1万部発行。100円で販売し、売り上げは保津川に関する活動

を行う市民団体を支援する基金として使われる。市民が市民団体の活動を支援する基金は、全国ではじめて。

冊子には古い絵はがきが30枚収録され、保津川の名所や歴史が紹介されている。曳舟や竹の筏など、今では見られなくなった風景が現在によみがえる。

使用した絵葉書はNPO法人プロジェクト保津川からの100枚、市文化資料館からの200枚と、同研究会の100枚から選んだ。さらに、赤い羽根共同募金からの支援を受け、保津川遊船企業組合などの協力を得て作製した。

昨年同研究会は、昨年に琵琶湖や淀川などを絵はがきで振り返る冊子を作っている。今後は川別

の冊子を作っていく方針で、今回の保津川冊子は川別シリーズの一回目。売り上げの55%は公益財団法人京都地域創造基金が管理する「母なる川・保津川基金」に寄付され、ほかは増刷の積み立て金などになる。

同研究会の鈴木康久世話人は「保津川の絵はがきは、ほかの川下りと同じく、群を抜いて多い。それだけ昔から人気を集めていたということ。今回は貴重なものや定番のものなど30枚を厳選しました」と話し、「基金によって、保津川流域を守り育てる市民活動を市民が支える仕組み作りができた」と効果に期待を寄せている。

▼冊子は保津川下り乗船場と市文化資料館で販売されている。通信販売も可能で、〒621-0814 亀岡市三宅町野々神1-122 カップパ研究会に郵送。

▼鈴木さんが冊子に掲載されている絵はがきを解説するトークシアター「100年前の絵葉書で下る保津川」が29日(土)午後2時から3時30分、市文化資料館で開かれる。参加無料。このほかに、保津川下りなどの映像上映も行われる。問い合わせは同館(電話22・0599)。

▼冊子は古い絵はがきが30枚収録され、保津川の名所や歴史が紹介されている。曳舟や竹の筏など、今では見られなくなった風景が現在によみがえる。

使用した絵葉書はNPO法人プロジェクト保津川からの100枚、市文化資料館からの200枚と、同研究会の100枚から選んだ。さらに、赤い羽根共同募金からの支援を受け、保津川遊船企業組合などの協力を得て作製した。